

# 『淀川 ～流域を歩く(安威川編)～』 マップ 2014.07.12(土)作成

## ①いし田

- ・野生ざる生息地
- ・コシアカツバメ・ウグイス・その他の鳥の声に癒やされた
- ・お店(いし田)には多くの客がいた
- ・地元のお米を釜で炊いたごはんと蕎麦が美味
- ・付近に大きな家が多い。山の恵みで財を成した旧家が多いのでは？

## 上流域

- ・古代まで遡る地名が多い(ex.車作、古代車を作る木材を献上した?)
- ・竜王山、古代信仰と関わりが?
- ・安威も意味がありそう
- ・ゴルフ場などの為に山が削られた
- ・杉林・竹林・森が荒れている
- ・「崩壊危険地」の看板近くに古くからの家や田畑有
- ・急な傾斜でも住宅が多い
- ・コンクリートで水路を整備した水田が点在
- ・採石場が多くダンプがとても多い
- ・採石場の影響で砂利・土ぼこりが多い。川の水が濁っている。
- ・大きな日本家屋が多い、木材で財を成した?
- ・新興住宅(大きなマンション)が多い、ゴルフコースもこれから作る?
- ・新名神の工事が大規模

## ④ 畑中権内碑

- ・深山水路開削の恩人(畑中権内)の碑
- ・水路を作った当時の争いについては案内されていない
- ・大・中・小の力石が置かれていた

## ⑤ 深山(権内)水路

- ・水路の水量が多く、冷たい
- ・水の勢いで音も大きい
- ・きれいに見えるがCOD値は10PPMと意外に数値が高い
- ・古い水車があった、豊かな水量を生かしていた暮らしの面影を感じる
- ・水路からパイプで田畑に水を引いて利用
- ・水路にカエルが多かった、イモリ、カワナもいた
- ・地域で作られた「ホテルをとらないで」の看板があった
- ・崩壊危険地に家屋・農地
- ・代替地も危ない?!
- ・昔の暮らしの中での水の大切さがわかった
- ・急傾斜地に水路が引かれて田畑が作られていた
- ・狭いところにも田畑が作られ風景が美しい
- ・棚田に畑が目立つ
- ・放棄水田が散見される

## ① 食事処 いし田

## ③ 無添加住宅 三浦製材所

## ③ 三浦製材所

- ・京都府内の木材を推進しているが、外材も扱わざるを得ない(用途・量などによって)
- ・生産者から直接ではなく市場から買付る仕組み
- ・ショールームで無添加住宅を紹介



## ② 杉林

## ② 杉林

- ・手入れされていない杉林
- ・すぐ奥には手入れされた杉林、持ち主が違う?
- ・日が差し込む明るい杉林が珍しい
- ・枝打ちもされ下草も生えつつある。間伐された木も放置されていない
- ・手入れしない山は災害の元
- ・杉林までの小道は草が刈られ、横に水路が通り涼しい
- ・川魚・沢ガニも生息、水が冷たい
- ・葉わさび栽培がされていた
- ・ザトウムシがいた

## ④ 畑中権内碑

## ⑤ 深山(権内)水路、棚田

## ⑥ 代替農地

## ⑥ 代替農地、代替住宅

- ・ダム建設による移転水田
- ・コンクリートあぜの移転水田
- ・コンクリート畔の上に、田んぼから出たと思われる石が置かれていた。
- ・ダム建設による代替住宅が山の頂上にあつて不思議な光景
- ・山肌を削った住宅地もある

## ⑦ 安威川ダム予定地

## ⑦ 安威川ダム予定地

- ・道路が広く整備されている
- ・ダム建設工事は土曜日実施
- ・ダム工場の規模の大きさにビックリ

## ⑧ 一ノ井堰、五社井堰

- ・過去に川の両岸で水害があった
- ・水田が広がる地帯
- ・COD値は10PPMと高い

## 中流域

- ・平坦な地形で、安威川の水を引いた水田や住宅地が広がっている



## ひとこと ~ 安威川“水争い”の歴史 ~

安威川では約350年にわたって水争いが繰り返されてきました。その中心となったのが上流域から中流域に至る箇所に置かれた一ノ井堰(\*⑧)と五社井堰(\*⑧)です。それぞれの堰の受水域(堰から水を得ている地域)同士の水争いも頻りにありましたが、五社井堰は下流域の村々からも水争いがもて訴えられ続けていました。一方で、上流の深山水路(\*⑤)の受水域との水争いにあつては、一ノ井堰、五社井堰双方の受水域が協力して抗議するなど、水争いは流域の上中下流で利害関係が錯綜して複雑な様相で展開していました。こういった水争いは戦後まで起こっていましたが、1967年の河川法で慣行水利権(慣習的に認められてきた水を利用する権利)の確立が図られていき、各堰での取水量が確定されていきました。